

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	(株) クラ・ゼミ こどもサポート教室「きらり」四日市校		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 11日		2024年 12月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26	(回答者数) 26
○従業者評価実施期間	2024年 11月 11日		2024年 11月 23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別療育のため、ご本人の課題にもアプローチしやすいし、保護者との情報共有等も関係性の構築がしやすいので丁寧に行うことができる。	基本的に保護者へ送迎をお願いしていることから、会って話ができる機会や時間があるため、ちょっとした日常的な会話から最近の困りごとを聞き出したり、事業所内相談につなげたりしている。ご本人へは、行動観察をしながら、課題の取り組み姿勢、今取り組むべき課題や将来取り組んでいきたい課題を明確にしながら進めるようにしている。	指導員それぞれの知識や技術を向上させながら、より高いレベルの療育を提供していく。また、保護者対応の充実を図り、事業所内相談の更なる活用、保護者会の企画実施など、保護者に対する働きかけをしていきたい。
2	発達障害や自閉症についての知識もさることながら、特性にどのようにアプローチしていくのかということについて理解した上で、療育を提供できる。	研修機会を多く設けるようにしている。また、ご本人についての情報共有を職員間で密にとるようにしており、様子の共有から課題内容についての相談及び何をねらいとして行うかななどを丁寧に話しをしている。知識技術向上のため、外部研修にも積極的に参加してもらうようにしている。	研修は継続して行う。初任者研修の後にユニット内などでの研修機会が減るため、来年度よりチームを作って業務内でそれぞれのテーマについて勉強できるような仕組みづくりが動く予定。
3	ブラジル人指導員がいることから、ポルトガル語での療育が展開でき、その他の制度の説明や就学相談などの日本文化についての説明などを丁寧に行うことができる。	ブラジル人の指導員にも、制度や仕組みについての理解をしてもらえるように、翻訳を通して研修を行ったり、わかりやすく説明して指導員が理解したことが保護者に還元できるように意識している。	ブラジル人指導員に向けた社内研修はなく、事業所単位やユニット内での研修にとどまるため、社内研修として取り扱ってもらえるように働きかけを行っている。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所の狭さがあり、場所が必要な大きな活動が展開できない。身体を大きく動かす活動などには制限がある。	賃貸のため、大きなリフォームは難しい。また、近隣に良い物件がないことから、移転も難しい。既に7年目の事業所のため、なるべく地域を変更せずに移転したいと思うと物件がなかなかない。	うまく空間を活用して取り組みを行っていく。今でも支障なく、ケガもなくできている。また保護者や相談員からの信頼も厚いことから、療育内容は良いものであると考えられ、今の内容や取り組み、できることを丁寧に行っていくことが大事だと考える。
2	地域交流の機会がないこと。	事業所の狭さの制約もあり、大々的な行事が難しいため、地域交流の機会を作ることが難しい。具体的にどのようなことが国が定める地域交流となるのかの定義の解釈が難しいことから、大きな活りでの機会ばかりを模索してしまっている。	小さな地域交流から始めることが大事だと思うため、民生児童委員への声掛けなどから進め、地域の1事業所であることを理解してもらえるような活動が必要。事業所見学からでもいいので、働きかけを行っていく。
3	第三者委員の外部評価がないこと。	会社組織が大きいゆえに1事業所だけ進める訳にもいかず、会社として足並みをそろえる必要があり、外部評価を進めていくことが難しい。	会社と相談しながら、足並みをそろえて話を進めることができるようにしていきたい。三重県内の他事業所の外部評価の状況なども確認して、働きかけを行う。

公表日

2025年2月15日

事業所名

こどもサポート教室「きらり」四日市校

利用児童数

26

回収数： 26

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		
環境・体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	21	3	2	0	もっと広いスペースが必要だと思う。ちょっとゴチャゴチャしている感じがします。隣の部屋で何を言っているのか、何をしているのかが聞こえてくる。	法令を遵守したスペースを確保しています。改善するには広い場所への移転しか策がありませんので、移転も検討していきます。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	26	0	0	0		
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境（※1）になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	20	4	1	1		毎年、トイレが2階にあるのでバリアフリーではないというご意見をいただくのですが、構造上1階への設置が難しいためご了承いただきたく存じます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	24	2	0	0		
適切な支援の提供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	26	0	0	0		
	6 事業所が公表している支援プログラム（※2）は、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	26	0	0	0		
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）（※3）が作成されていると思いますか。	26	0	0	0		
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	26	0	0	0		
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	26	0	0	0		
	10 事業所の活動プログラム（※4）が固定化されないよう工夫されていると思いますか。	24	2	0	0		
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。	21	2	2	1		
保護	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	25	1	0	0		
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	23	1	0	2		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング(※5)等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	18	3	3	2		
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	25	1	0	0		
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	21	4	1	0		

者への説明等	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	18	2	1	5		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	18	4	3	1		
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	23	1	0	2		
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	25	0	0	1		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	23	1	1	1		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	25	0	0	1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	19	4	1	2		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	18	6	0	2		
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	25	1	0	0		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	25	1	0	0		
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	25	1	0	0		
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	25	1	0	0		
	29	事業所の支援に満足していますか。	20	4	0	2		

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	こどもサポート教室「きらり」四日市校	公表日	2025年 2月 15日
------	--------------------	-----	--------------

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	✓		法令を遵守したスペースを確保しています。狭いながらも工夫しながら、子どもたちにとって必要な療育を提供しています。	スペースの関係で部屋をうまく分散させることができます。壁もない。その結果、子供も混雑する。布製の仕切りは音を消さないで、子どもたちはお互いのセラピーを聞き、集中力やパフォーマンス、時間の使い方に支障をきたしている。聴覚に敏感な子どもたちは、隣のセラピーの騒音にも影響を受ける。
	2	✓		法令で必要とされる配置数に加え、指導員を1名以上（常勤換算による算定）配置しています。	
	3	✓		手を洗いに行く際や、排泄の際は階段を使用するため必ず指導員が付き添っています。トイレが2階にあるため、特に階段の昇り降りは必ず付き添いを行うといった細心の注意を払っています。	建物の構造上、トイレの位置を変えることはできないため、工夫しながら対応していく。バギー使用の利用者は問題なく通えている。
	4	✓		毎朝の掃除だけでなく、来所されているお子さんがいない時間帯で定期的にエアコンのフィルター掃除・加湿器、除湿器の掃除を行っております。	
	5	✓		基本的に個別での対応をしているため、その時間その部屋はその子供と指導員で使用しています。自由に空間を使うことができます。	
業務改善	6	✓		会議を開いて職員に周知徹底しています	
	7	✓		保護者様へ評価表の記入をお願いし、業務改善につなげています。	
	8	✓		事業所内の職員の人数は少ないため、一人一人と話をすることが多くあり、意見や要望なども言いやすい環境にあります。	
	9		✓	現在は、利用者・社内の2者評価をとっております。	第三者による外部評価については、現在実施の予定はないが、今後必要に応じて社内で実施を検討する
	10	✓		月1回以上の研修が設けられています。また、個人での研修参加も積極的にっており、職員のスキルアップに繋がっていると考えられます。	日本人向けのコースやトレーニングは常にあるが、外国人には適応されていないので、参加できない職員がいるため、会社に働きかけを行っている
適切な支援の提	11	✓		支援プログラムについて適切な方法で公表しています。	
	12	✓		アセスメントを行い、本人の状況や家族の状況を確認して、計画を立案しています。	
	13	✓		常に情報共有を行うと共に、モニタリングにも参加してもらい、内容の共通理解を図っています。	
	14	✓		原案の段階で確認をしてもらい意見をすり合わせて本計画を作成し、計画に沿って支援をしています。	
	15	✓		毎年アセスメントをとり統一したアセスメントシートを使用しています。特に日常の行動観察については個別療育でよく確認できるため常に行っています。	
	16	✓		より具体的に内容を記載することで、保護者様にも伝わりやすくかつ指導員も適切な支援がしやすいよう、表現には気を付けて作成しています。また、家族支援や移行支援などについても将来を見据えた内容を説明しています。	
	17	✓		日々の療育の内容や共通の利用者様への対応など、1つ1つ確認して進めています。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	✓		個に応じた支援内容を考え、効果的に楽しく学べるようにしています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	✓		個別で培った力を小集団で確認し、新たな課題が見つければ個別で対応して般化を狙うといったサイクルを実現しています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	✓		その日の利用者を確認して、役割分担や予定を確認しています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		✓	片付けや、準備などで話すことができない際は、次の日など時間を設けて共有するようにしています。	終礼は特に行っていないため、今後検討していきたい。しかし、定時退社ということも考えていく必要があるため、バランスが大事。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	✓		支援終了後、記録をとり、利用者の様子や成長の変化に合わせて指導内容や方法を更新しています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	✓		6か月に1度、モニタリングを行い、見直しを行っています。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	✓		児発管を基本に、担当指導員が参加できる際には参加しています。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	✓		情報共有を行うことで、子どもに対しての共通理解を得ることができ、必要な療育内容を展開できるため、連携は常に意識的に行っています。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	✓		療育の中でうまくいった方法などを般化させ、よりよい本人の生活につながることを大事と考え、情報共有を行っています。特に就学への移行については丁寧に行うようになっています。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	✓		保護者様の希望に応じて学校へ赴き、情報共有を行うことでより良い学習保障がなされるよう工夫しています。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	✓		常に連携を取っており、相談なども含めて助言を受けようとしている。また、見学などにも積極的に参加し、センターでの取り組みと事業所での取り組みに差が生まれないよう意識しています。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		✓	他の施設のお子さんや地域の中で関わる機会はありません。個別で1時間利用のため、時間的な問題やお子さんの特性によっては難しい場合もあります。	地域交流の仕方について、今後検討を重ねていく。利用時間についてや支援プログラムについても変更が必要のため、慎重に検討したい。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	✓		療育の後はフィードバックの時間を設けて話をしています。また、LINEなどで写真や動画を共有し、本人の様子の良い変化に気づいて前向きな気持ちになってもらえるような工夫をしています。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	✓		家庭で実施していただける療育内容の情報提供をしています。また、職員が情報提供できるように研修を行っています。		
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	✓		契約時に丁寧に説明するとともに事業所内に書類を掲示しています		
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	✓		保護者と子どもの意見の相違にならないよう、子ども側に立った目線で話し合い、子どもの気持ちや思いを代弁しながら話を進めるようにしています。		

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	✓		計画作成後に確認してもらい、内容を声に出して確認するようにしています。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	✓		フィードバックの際以外にも、必要に応じて保護者の方に来所していただきお話を聞かせていただいております。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		✓	様々な感染症のリスクがあったため、2名でお話していただくなど繋げていく方法を考えて行いました。少人数制で様子を見ながら、連携を深めていただく内容を考えていきます。	保護者およびきょうだいに対して、イベントや会の開催を含めて検討中。場所の制約もあるため、安全に配慮した内容を展開していくために時間が必要。
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	✓		いつでも相談や申し入れを受け入れる体制を整えており、迅速かつ適切に対応しています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	✓		今年度から、きらりだより（3か月に1回）をお渡ししております。お子さんの活動の様子や、お知らせなどを記載してお渡ししております。	ブログでも積極的に情報発信しているがなかなか周知されていないため、アピール方法を検討したい。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	✓		個人情報に記載された書類は鍵付きに書庫へ保管しています。また、個人情報にアクセスできる端末には、パスワードを設定して適切な対応を行っています。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	✓		利用者様やご家族様の母国語に応じて、適切に意思疎通、情報伝達を行っています。	情報保障という観点を大事にして、わかりやすく共有することなど、今後の課題としていきたい。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		✓	地域の方と交流する機会はないので、機会があれば交流する機会を設けていきたいです。	大々的な行事は行っていないため、地域交流を模索する必要がある。行事内容など検討し、交流の機会を得られるようにしたい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定するとともに、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	✓		マニュアルを作成して研修や訓練を実施しています。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	✓		BCPを作成し、その内容に基づいた訓練を行っています。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	✓		契約時にフェイスシートを記入してもらい、状況を把握するようにしています。てんかん発作についても対応方法について周知しています。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	✓		食事やおやつ提供は基本的にありませんが、アセスメントの際に確認をしています。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	✓		計画を作成し、毎月計画に沿った訓練及び点検を行っています。道具の確認、椅子や机などのゆがみやネジの緩みなども確認しています。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	✓		計画の実施後にはLINEやブログなどで写真を記載して内容の説明を行っています。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	✓		ヒヤリハット事例が起こった時は、報告書を作成して、保管し職員間で共有しています	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	✓		マニュアルを作成して、研修を行っています。県主催の研修には必ず参加しています。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	✓		身体拘束をする場合は、保護者に十分説明をして個別支援計画へ記載します。契約時にも重要事項説明書を使って説明しています		